



チャンスはどこに

毎年この時期はどうしても高校野球の話題になってしまいます。いつも印象に残るドラマが必ずあるからです。今年は4試合すべてが1点差でしかもそのうち2試合が延長戦という準々決勝の一日がありました。「ピンチの後にチャンスあり」とはよく言ったものでどちらのチームにもチャンスがあり、それを紙一重の差でものにできた方が勝利できたということでしょう。

ところでチャンスそのものは、どこにでも誰にでもありそうで、実はそうではないのかもしれませんが。スポーツではなく、抗寄生虫薬の研究という分野で大発見をした北里大学特別栄誉教授の大村智さんが「チャンスは準備が整ったところにやって来る」と言っています。準備ができていなければ偉大な発見のチャンスも見逃してしまうということ。野球にもどって、イチローの4000本安打にしても「4000本のためには8000回以上の悔しい打席があり、それを無駄にしてこなかったから達成できた」と本人がインタビューに答えていました。楽天の田中将大の連勝記録にしても、めったにないチャンスを生かしきる準備がトレーニング等を通じてできていたのでしょう。

受験生にだって同様のことが言えるのではないのでしょうか。毎年夏期講習では中3全員に「間違い直しノート」を配って、自分が間違えた問題を解きなおすようにアドバイスしています。今夏はNさんの、数学や理科でやったことの徹底的な復習ノートが見事でした。そのノートでわからなかったところには付箋がつけてあって、補習の時間に質問にも来ました。「わからないところがわからない」と言う人がよくいますが、それは単に練習量の不足とそれをそのままに放置していた結果です。要するに準備不足。それではやっぱり合格のチャンスを逃してしまいます。そして「準備すること」のもう一つのメリットはてきぱきと物事を進められる習慣がついて、時間短縮につながる。「試験後に解いてみたらできたのに試験中は時間切れでできなかった」ということもなくなりますよ。